



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月6日

上場会社名 日本ユニシス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8056 URL <https://www.unisys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平岡 昭良
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 澤上 多恵子 TEL 03-5546-7404
 四半期報告書提出予定日 2019年11月12日 配当支払開始予定日 2019年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト・報道機関向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	149,726	11.9	11,020	35.8	11,656	36.5	7,928	28.1
2019年3月期第2四半期	133,821	1.5	8,117	21.3	8,541	23.0	6,192	31.1

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 7,692百万円 (10.2%) 2019年3月期第2四半期 6,978百万円 (△5.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	79.01	78.74
2019年3月期第2四半期	61.72	61.50

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	205,993	121,312	57.9
2019年3月期	211,421	116,615	54.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 119,339百万円 2019年3月期 114,638百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
2020年3月期	—	32.50	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	32.50	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	307,000	2.7	23,000	11.5	22,800	11.1	16,000	12.4	159.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	109,663,524株	2019年3月期	109,663,524株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	9,311,571株	2019年3月期	9,315,429株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	100,351,203株	2019年3月期2Q	100,332,209株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国際情勢を巡る緊張の増大が世界経済に与える影響が懸念されたものの、雇用・所得環境の改善が続く中で、引き続き緩やかな景気回復基調にありました。

国内の情報サービス市場においては、情報システム投資が堅調に推移しておりますが、異業種からの参入による競争は激しくなると見込まれ、当社を取り巻く環境は依然として厳しい状況であると認識しております。

このような環境の中、日本ユニシスグループは、「顧客・パートナーと共に社会を豊かにする価値を提供し、社会課題を解決する企業」として、業種・業態の垣根を越え、さまざまな企業をつなぐビジネスエコシステムを創る中核となり、デジタルトランスフォーメーション^{注1}を実現するプラットフォームの提供企業となることを目指した中期経営計画「Foresight in sight[®] 2020」（2018-2020年度）を策定し、重点施策に取り組んでおります。

中期経営計画で定めた4つの注力領域においては、対応する社会課題により、それぞれの領域の垣根を越えてクロスファンクショナルに活動しております。主な取り組みとして、MaaS^{注2}分野においては、大津市および京阪バス株式会社と「持続可能なまちづくり」の実現に向けたMaaS推進協定を締結し、実用化に向けて進めております。2019年11月には、大津市内および比叡山にて実証実験を開始し、観光案内、ルート検索、クーポン、企画乗車券購入機能などが一体となった観光MaaSアプリ「ことことなび」を試験的に展開する予定です。また、新潟市においてもMaaS検討推進プロジェクトに参画し、実証実験に向けた準備を進めている等、各地でMaaSの取り組みを拡大しております。

次に、キャッシュレスの推進によるスマートな消費社会の実現に向けた取り組みとして、子会社であるキャナルペイメントサービス株式会社によるJCB既存加盟店へのQR・バーコード決済導入が引き続き拡大しております。また、株式会社ジェーシービーが展開するSmartCodeTM^{注3}に対しても、参画を発表しているイシューとのゲートウェイ接続を順次実施しており、QR・バーコード決済の普及を促進しております。

また、当社が2018年3月から運営している「VR でマイホームをつくる」をコンセプトとしたバーチャル住宅展示場「MY HOME MARKET[®]」^{注4}は、新たに株式会社ウッドフレンズの住宅販売に採用され、採用社数は合計6社となり、順調にサービスを拡大しております。同サービスは、2019年6月に経済産業省によるIT導入補助金の助成対象となりハウスメーカーにおけるサービス採用の追い風となっているほか、同年10月には「2019年度グッドデザイン賞」を受賞する等、消費者の住宅購入のスタイルを変えるデザインとして高い評価を得ております。今後、さらに普及拡大を進めていくことで、ユーザーに寄り添った住まいづくりとハウスメーカーの働き方改革の推進の両面に、より一層貢献してまいります。

IoTビジネスプラットフォーム^{注5}における取り組みでは、人間の認識・判断を再現する空間認識プラットフォームである「BRaVS (ブラーブス) LibraryTM」および「BRaVS PlatformTM」をリリースいたしました。BRaVS^{注6}は東北電力株式会社で実証を行っている火力発電所の設備パトロールの自動化におけるAI技術や、株式会社日本海コンサルタントと共同研究をしている橋梁点検における劣化要因や健全性の判定を行う画像診断のAI技術として活用されております。橋梁点検におけるAI技術の活用については、石川県産業創出支援機構（ISICO）による事業化促進支援事業に採択され、2020年夏に向け、システムの事業化を進めてまいります。

一方、ICTコアビジネスでは、幅広い業種でシステム更改需要に伴うSI型ビジネス案件や製品販売などが堅調に積み上がっております。また、働き方改革の推進等の生産性向上への取り組みに加え、システムエンジニアの稼働率が高いレベルで推移した結果、収益性が向上しております。引き続き、システム開発や運用における生産性向上に向けた取り組みを推進してまいります。

以上のように、中期経営計画「Foresight in sight 2020」の達成に向けて日本ユニシスグループ一体となって取り組んでおります。

- (注) 1. デジタルトランスフォーメーション：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
2. MaaS (Mobility as a Service)：運営主体を問わず、情報通信技術を活用することにより自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。クルマの「所有から利用」への動きが進む中、モビリティのサービス化の動きが加速している。
3. SmartCode：株式会社ジェーシービーが提供する、一般社団法人キャッシュレス推進協議会の規格に準拠したQRコード・バーコード決済スキーム。
4. MY HOME MARKET：当社が展開する、スマートフォンなどのデジタルデバイスからVR上でモデルハウスを疑似体験することで理想の家づくりをサポートするサービス。
5. IoTビジネスプラットフォーム：日本ユニシスグループが提供するセンサーやカメラなどのデバイスによるデータ収集からデータ解析、機械学習までを一貫して管理するプラットフォーム。
6. BRaVS：当社が提供する人間の認識・判断を再現する空間認識プラットフォーム。画像情報に加えて、4Dデータ（距離・空間+時間）やその他の付加情報（「地域」・「季節」・「時間帯」・「気温」・「音」等）を深層学習に組み込むことで、より人

間に近い総合的な認識・判断を可能にし、これまで実用化が難しかった領域で物体の認識・検出や異常検知など、高い精度の判別を実現する。

7. 記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、システムサービス、ソフトウェア、ハードウェア販売等が堅調に推移した結果、1,497億26百万円(前年同期比11.9%増)となりました。

利益面につきましては、研究開発費の増加等があった一方、システムサービスやアウトソーシングの増収に伴う利益増加や、収益性の改善等により、営業利益は110億20百万円(前年同期比35.8%増加)、経常利益は116億56百万円(前年同期比36.5%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は79億28百万円(前年同期比28.1%増加)となりました。

当第2四半期累計期間の個別業績につきましては、売上高は851億35百万円(前年同期比3.3%増加)、営業利益は65億94百万円(前年同期比13.2%増加)、経常利益は118億49百万円(前年同期比11.2%増加)、四半期純利益は95億36百万円(前年同期比9.4%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、売掛金の減少等により、前連結会計年度末比54億28百万円減少の2,059億93百万円となりました。

負債につきましては、買掛金や有利子負債の減少等により、前連結会計年度末比101億25百万円減少の846億80百万円となりました。

純資産につきましては、1,213億12百万円となり、自己資本比率は57.9%と、前連結会計年度末比3.7ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末比11億27百万円増加の283億28百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金につきましては、税金等調整前四半期純利益113億29百万円(前年同期比30億61百万円増加)に加え、売上債権の減少113億64百万円、非現金支出項目である減価償却費54億36百万円等の収入加算要素および、仕入債務の減少68億38百万円、たな卸資産の増加32億25百万円等の収入減算要素により、126億3百万円の収入(前年同期比20億20百万円の収入減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金につきましては、主に営業用コンピュータ等の有形固定資産の取得による支出14億66百万円(前年同期比2億54百万円支出減)、アウトソーシング用ソフトウェアに対する投資を中心とした無形固定資産の取得による支出26億35百万円(前期比56百万円支出減)、中期経営計画で定めた注力領域の強化・拡大を目的として実施した、ファンド投資や子会社であるCVCファンドの運用を中心とした投資有価証券の取得による支出7億61百万円(前期比6億94百万円支出減)等により、52億69百万円の支出(前期比7億74百万円支出減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金につきましては、長期借入金の返済による支出22億77百万円(前年同期比4億43百万円支出減)、配当金の支払額30億7百万円(前年同期比10億2百万円支出増)等により、62億6百万円の支出(前年同期比4億38百万円支出増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月9日発表の連結業績予想および個別業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年 9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,200	28,328
受取手形及び売掛金	72,479	61,262
商品及び製品	8,248	9,716
仕掛品	1,947	3,710
原材料及び貯蔵品	86	80
その他	18,364	20,147
貸倒引当金	△56	△49
流動資産合計	128,270	123,195
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,082	3,971
機械装置及び運搬具(純額)	6,670	6,342
その他(純額)	3,496	3,244
有形固定資産合計	14,249	13,558
無形固定資産		
のれん	1,288	1,708
ソフトウェア	19,982	18,973
その他	102	96
無形固定資産合計	21,373	20,778
投資その他の資産		
投資有価証券	23,854	24,971
繰延税金資産	1,656	1,019
退職給付に係る資産	7,087	8,036
その他	15,237	14,730
貸倒引当金	△307	△297
投資その他の資産合計	47,528	48,461
固定資産合計	83,151	82,798
資産合計	211,421	205,993

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年 9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,009	19,272
1年内返済予定の長期借入金	5,255	5,180
未払法人税等	2,905	2,215
未払費用	11,155	10,780
前受金	15,761	20,063
請負開発損失引当金	652	717
その他の引当金	1,555	1,099
その他	11,304	8,058
流動負債合計	74,600	67,386
固定負債		
長期借入金	16,635	14,782
引当金	416	208
退職給付に係る負債	614	634
資産除去債務	1,131	1,141
その他	1,408	527
固定負債合計	20,206	17,293
負債合計	94,806	84,680
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,483	5,483
資本剰余金	14,909	14,909
利益剰余金	97,893	102,809
自己株式	△13,540	△13,535
株主資本合計	104,745	109,666
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,561	6,978
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△31	△59
退職給付に係る調整累計額	3,361	2,754
その他の包括利益累計額合計	9,892	9,673
新株予約権	432	451
非支配株主持分	1,544	1,520
純資産合計	116,615	121,312
負債純資産合計	211,421	205,993

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	133,821	149,726
売上原価	99,997	112,337
売上総利益	33,824	37,388
販売費及び一般管理費	25,706	26,368
営業利益	8,117	11,020
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	341	354
偶発損失引当金戻入益	92	300
その他	132	174
営業外収益合計	570	833
営業外費用		
支払利息	51	36
和解金	-	65
投資事業組合運用損	63	62
その他	31	32
営業外費用合計	146	196
経常利益	8,541	11,656
特別利益		
投資有価証券売却益	57	33
その他	-	0
特別利益合計	57	34
特別損失		
減損損失	89	284
投資有価証券評価損	232	68
その他	8	7
特別損失合計	330	361
税金等調整前四半期純利益	8,268	11,329
法人税、住民税及び事業税	609	2,704
法人税等調整額	1,444	713
法人税等合計	2,053	3,417
四半期純利益	6,214	7,912
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	22	△16
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,192	7,928

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
四半期純利益	6,214	7,912
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	563	416
繰延ヘッジ損益	1	△0
退職給付に係る調整額	262	△607
持分法適用会社に対する持分相当額	△62	△27
その他の包括利益合計	764	△219
四半期包括利益	6,978	7,692
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,956	7,709
非支配株主に係る四半期包括利益	22	△17

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,268	11,329
減価償却費	5,593	5,436
減損損失	89	284
のれん償却額	41	106
投資有価証券売却損益 (△は益)	△52	△31
投資有価証券評価損益 (△は益)	232	68
請負開発損失引当金の増減額 (△は減少)	△42	64
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△430	△686
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	27	19
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△1,168	△948
退職給付に係る調整累計額の増減額 (△は減少)	377	△875
受取利息及び受取配当金	△344	△358
支払利息	51	36
売上債権の増減額 (△は増加)	9,607	11,364
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,633	△3,225
立替金の増減額 (△は増加)	△651	△763
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,166	△6,838
未払費用の増減額 (△は減少)	△912	△404
その他	697	1,025
小計	16,585	15,601
利息及び配当金の受取額	346	360
利息の支払額	△52	△37
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,255	△3,321
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,623	12,603
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,720	△1,466
無形固定資産の取得による支出	△2,691	△2,635
投資有価証券の取得による支出	△1,455	△761
投資有価証券の売却による収入	73	70
関係会社貸付けによる支出	△230	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△524
その他	△18	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,043	△5,269
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,000	△1,050
長期借入れによる収入	-	350
長期借入金の返済による支出	△2,721	△2,277
セール・アンド・リースバックによる収入	329	28
その他の借入れの返済による支出	△305	△163
配当金の支払額	△2,005	△3,007
非支配株主への配当金の支払額	△64	△84
その他	△0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,767	△6,206
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,812	1,127
現金及び現金同等物の期首残高	18,575	27,200
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,388	28,328

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。